

第 56 回日本薬剤師会学術大会

口頭発表

ステロイド外用薬に関する指導内容の均てん化を目的とした指導ツールの運用

総合メディカル（株）そうごう薬局 宝殿駅前店¹⁾、三田店²⁾
HAT 神戸店³⁾、総合メディカル（株）⁴⁾
花井 拓也¹⁾、伊野 朱音²⁾、細川 友理子³⁾、坂口 雅彦⁴⁾

【目的】ステロイド外用薬の治療は症状に応じて使用量・期間が異なるが、処方箋に詳細な指示記載のないことが多く、指導する薬剤師により内容に違いが生じやすい。そこで指導内容の均てん化を目指し、ステロイド外用薬指導ツールを作成・運用することとした。今回は開始にあたり、指導ツールに関する薬剤師の理解度・指導内容の変化について調査した。

【方法】2022年4月そうごう薬局近隣18店舗の薬剤師を対象に、ステロイド外用薬の適切な使用方法に関する理解度・指導状況、患者より受ける質問内容についてアンケートを実施した。その後、「アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021」等を基に作成したステロイド指導ツールを運用開始し、2か月後に事後アンケートを行い変化について調査した。

【結果】対象57名の薬剤師のうち55名より回答を得た(回答率96%)。薬剤師経験年数は10年以下が40名(72%)、普段より皮膚科処方箋を応需しているのは19名(33%)であった。指導ツール使用前のアンケートでは「FTUの単位を目安に使用量を伝える」項目を理解していたのは32名(58%)。実際に指導していたのは13名(23%)だったが、指導ツール運用後32名(58%)に増加した。「指示された期間を守り中断しないこと」について指導していたのは16名(29%)、指導ツール配布後19名(34%)となった。「副作用の説明」については5年目以下の薬剤師の実施が少なく、25名中2名であった。また患者より受ける質問として「保湿剤とステロイドの塗布順番」「化粧を行う場合のステロイドの塗布方法」が多く挙げられた。

【考察】今回の調査により、ステロイド外用薬の適切な使用量の指示・使用期間等について服薬指導が一様に行われていないことが分かり、作成した指導ツールを用いることで正しい知識に基づいた指導を行う意義が示された。また「FTUを目安に」という項目は、指導ツールを使用することで実践性が向上したこと、視覚的に伝えられる資料の有用性も示唆された。その他、新たに指導ツールに取り入れるべき患者からの質問事項も明らかになったことから、更なる拡充の必要性を考察した。